

第2回 米子市立学校校区審議会会議録（概要）

日 時 令和3年5月25日（火）午後1時30分

場 所 米子市役所 旧庁舎3階 603会議室

出席した委員の氏名

縄田 裕幸、藤原 厚子、小谷 良夫、笠井 和観、福田 哲周、安次 里絵
津田 憲一、本池 亜依、横原 さおり、畔上 守、矢倉 検治、村瀬 豊
高橋 誠一、岡田 隆、田邊 忠雄、安達 卓雄、永島 香織、本池 克好
増田 貴子

説明のために出席した職員の職氏名

教育長	浦林 実
事務局長兼教育総務課長	松田 展雄
学校教育課長	西村 健吾
学校教育課学務担当課長補佐	住田 耕一
学校教育課担当課長補佐	遠藤 幸子
学校教育課主事	門脇 舜

出席した関係者

総合政策課長	川本 陽子
総合政策課まちづくり推進室長	伊藤 昭裕
総合政策課係長	安居 利弘

開会 午後1時30分

1 会長挨拶

2 事務局説明

- (1) 諮問内容の確認
- (2) 「校区審議会」と「まちづくり協議会」の取扱事項の整理
- (3) 今後のスケジュール

3 質疑応答・意見交換

委員 最初に伺いたいことがあります。小学校3校と中学校1校を加えた4校で新しい学校を作るという方針でよろしいですか。今までの話を聞いていて、やはり今ある学校に思い入れがある方もおられる一方で、新しい学校を推す方もおられます。いろいろな話を聞く中で、前提として、義務教育学校であろうが小中一貫型小学校・中学校で

あろうが、決まらなると次のステップに行けないということになると、それが決まって初めて、校舎をどこにするのかとか、跡地をどう利用するのかという話になると思います。ただ、3町の温度が同じ温度ではないということが伺える中、現状存置と、新しい学校を作りたいという意見で分かれたとき、折衷案はないのでしょうか。全校を統合するかしないかしか方法はないということですか。自分のところは嫌だとか、自分のところは統合したいと意見が分かれたとき、3町がまとまるか不透明な中で、例えば小学校2校と中学校1校を統合するという方向性はありますか。

課長 そういったご意見がもし答申の方で出されれば、そのことも踏まえて、今後の学校づくりについて検討していく必要があると考えております。

委員 そういった方向性もあり得るということですね。

課長 可能性としてはあり得るということです。

委員 先ほど、教育委員会の方で義務教育学校の形が決まったら、まちづくり協議会の方で設置場所等の検討が進むということでしたが、これがもし決まらなかったら、まちづくりの検討は進まないのでしょうか。

課長 先ほど申しましたとおり、あくまで本校区審議会の審議結果を前提としてのまちづくりの意見交換という位置づけです。ただし、仮に結論が現状存置ということであっても、別の話題でのまちづくり協議会の議論が進むことも想定されます。そういったことも含めて、諮問事項以外のことについては、本校区審議会ではなく、まちづくり協議会の方で協議していただけると認識しています。

会長 それでは次第に従いまして、美保中学校区の今後の推定児童生徒数につきまして事務局から説明いただきたいと思います。

事務局説明 『美保中学校区の今後の推定児童生徒数（令和3年5月1日）について』

会長 今回の調査結果を受けて、この結果が本審議会での議論にどのような影響があるでしょうか。

課長 事務局としましては、先ほどご説明したとおり、現時点において令和8年度の和田小学校の複式学級の想定が参考値の上で解消されたものの、この数はあくまで想定であって、令和8年度の複式学級が本当に解消されることを保障するものではありません。具体的には、今後転出によって減少する可能性も十分にあり流動的なものであるということ、また、全ての複式学級の想定が解消されたわけではなく、新たに想定されるものが出てきているということに加え、美保中学校の令和13年度と15年度入

学予定生徒数がクラス替えの可能な1学年2学級以上を満たさなくなり、中学校の適正規模・適正配置の検討が必要になってきます。また、これまでの説明会やまちづくり協議会において、複式学級になるかどうかに関わらず、今後の美保中学校区の、学校を核としたまちづくりに議論の内容が移ってきていると認識しています。以上のことを総合的に勘案すると、事務局としては、引き続き今後の美保中学校区の学校づくりの在り方について、当初お示ししたとおりのスケジュールで、本審議会においてご審議いただきたいと考えています。

会長 不確定要素ということもありますし、現時点では遅かれ早かれ複式学級が想定されるということで、当初のスケジュールどおり、この審議会でも美保中学校区の学校の在り方を検討するということですが、この点いかがでしょうか。

(発言なし)

会長 そうしますと次第に従って次に進みます。義務教育学校について、前回のこの会で話題に上がりました。これについては、もう少し情報がほしいというような声もいただきましたので、事務局の方で詳しい説明の資料を用意していただいているようです。それでは事務局の方からよろしくお願いします。

事務局説明 『鳥取市立湖南学園視察報告』

委員 まず、感想からですが、視察に行ってください、とてもよく分かりました。ありがとうございます。続いて質問ですが、独自の教科を文部科学省の教育課程特例校の指定を受けなくても導入することができるのか、授業時間が各学校によって違うというのは、なぜこういったことができるのか。また、小学校6年生段階や中学校1年生段階での卒業式や入学式が、示された学校では行われていないということですか。

課長 まず、独自の教科の設定ですが、平成27年に文部科学省の告示によって、そういった特別な教科を設定できることになりました。次に、授業時間については、校長の権限で設定しています。一般的には小学校段階が45分、中学校段階が50分ですが、例えば市内の中学校において、45分授業を行いながら、残りの5分をまとめて別の曜日に設定して、活用問題に取り組んだり、習熟を図ったりする時間として学習する取組の例もあります。いずれにしても、学習指導要領に則って、総時間数が足りないということがないよう、各学校において工夫して取り組んでいます。

事務局 湖南学園における入学式・卒業式につきましては、入学式は小学校1年生の時に今の公立学校と同じように行っておりますが、卒業式は9年生が終わるところで行っているそうです。ただ、9年間という長さから、「もう少し区切りがあった方が良い」という保護者の声もあり、初等・中等・高等といったブロックごとに「ブロック修了

式」という形で設けているということでした。

委員 湖南学園、鹿野学園、福部未来学園、江山学園は鳥取市立ですよね。このそれぞれの学校で授業時間が違ったり、ブロックが違ったりというのは、具体的にどなたが決めることでしょうか。例えば学校が始まる時に教育委員会が決めることなのか、私立学校であれば理事会や理事長で決めるのはイメージが湧きますが、鳥取市立でなぜこういうふうにいるいろいろ違っているのでしょうか。

課長 先ほども触れましたが、生活時程でありますとか、授業時間でありますとか、そういったことは義務教育学校であろうとなかろうと、学習指導要領に定められているものから逸脱しない範囲で、各学校の校長が教育課程として定め、工夫しながら実施しています。

委員 小規模校転入制度が鳥取市独自の制度だということですが、約2割の児童生徒が校区外から通学しているということで、学校としては人数が増えるというメリットがあるのかなとは思いますが。ただ、私としては学校を軸としたまちづくりという観点とは関わっていないような気もするし、結局校区外から学校に来るという形だと、単にいいとこ取りしているような気もします。実際この制度を取り入れておられる学校では2割の方が校区外から来られていることによって、どのような効果があったのでしょうか。

課長 一つは、校区の子どもたちに加え、人数が増えることによって多様な考えに触れたり、切磋琢磨したりできるということは伺いました。本市においても同様な制度を導入することは可能ですが、これまでの説明会や懇談会でご意見を頂戴する中で、学校を中心としたまちづくりの観点から考えると、導入の効果が目的に沿うものなのか否か、慎重に検討していく必要があると考えています。ただ、選択肢の一つとしてはあり得ると考えています。

委員 デメリットについて伺っていますが、もっと詳細に知りたいです。実際に通わせている保護者の方の話や、教職員の方の話とかありますが、もう少し具体的に、実はこんな話があってというのをしっかり聞いておかないと、もしこの形になってから思っていたのと違うとか、こんなことがあるなんて聞いてないといったことになるといけないので、もう少しデメリットについて深掘りしてもらえたらと思います。

課長 ご指摘の点は事務局としても訪問した際に考えていたことでして、繰り返し伺ったつもりですが、現在のP・T・A会長さんもそういったお声でしたし、何より20%というお子さんが校区外から来ておられるという実績から、湖南学園においては伺ったとおりなのかなというのは事務局として感じました。ただ、ご指摘のご心配もごもっともですので、次回の審議会では、補足して情報提供させていただきたいと思いま

す。

委員 教科担任制というのは現時点の学校では採用できないのですか。

課長 現在、小学校段階においても積極的に教科担任制を導入するような通知が文部科学省から来ております。米子市内の小学校でも、現在、今の中学校のような教科担任制はできないものの、可能な限り教科担任制を実施するような体制をとっております。メリットとしては、子どもの学力向上、教師の指導力向上、また、できるだけ多くの教師で子どもを見ることで生徒指導面でも効果があると一般的に言われており、実際、非常に有効であると認識しています。

委員 現状の学校でも教科担任制ができるのであれば、義務教育学校にする必要はないのではないですか。

課長 同じ教科担任制でも、小学校のままと義務教育学校とのそれでは、質的にも量的にも大きく異なります。例えば、小学校のままですと、同じ教科の時間数で、国語と算数を交換したりとか、級外の教員が単発で入って授業したりとかはできますが、中学校のような教科ごとに専門性のある教員が入って授業を実施するという事は、教員の数から言っても不可能です。

委員 各学校に順応したような対応はできないのですか。

課長 教員定数が国の法令で定められていますので、現状の小学校では、中学校のような教科担任制の実施はなかなか難しいです。

委員 校長先生が変わったときに教育方針も変わるとは思いますけど、それについてはどうですか。変えることができるのか、それとも今までの前例踏襲でいかないとダメなのか。それについてはどうですか。

課長 新しい学校となれば、新しい校長が、それまでの学校課題であるとか、校区の実態、子どもたちの実態等を踏まえて学校経営方針を定めますので、変えることはできますし、多くの場合、校長が変わればこうしたものは変わります。ただ、それまでの方針や取組で成果の顕著なものは継続するケースも多いですので、そういった意味での前例踏襲はあります。

委員 湖南学園の8年生・9年生というのは、いわゆる受験対策ではないですけど、それに向けていくような流れですか。普段の勉強もするでしょうけど、8年生・9年生でブロックを分けたというのは、そういう受験に対する意味合いもあるのでしょうか。

課長 受験対策という意味合いを前面に出して8年生・9年生を高等ブロックにしたというようなことは伺ってはおりませんが、話の中で、普通の学校よりも少し前倒しで進路を意識させるようなことを8年生段階で行っていると伺いました。

委員 義務教育学校のメリットを見ていると、教科担任制とか、縦割り班があつて上下の交流があるとか、現状の和田小学校と似ていると思いました。コミュニティ・スクールなども、逆にモデル校になれるくらい地域の方が協力してくださっています。人数は少ないけど、その少なさが良い形で出て、良い状態の学校になっていると思います。それをいきなりまとめるというよりも、今の状況を維持しながらまちづくりの方を、人を増やしていく方をまず考えていってからでも遅くはないのではないかと思います。

委員 実際私は、視察に同行させていただきましたので、感想等をお伝えしたいと思います。今、デメリットがどうなのかという話が出てきましたけども、私も同じことを道中思いながら現地に向かいました。私は教員なのでどうしてもそういう目線で見ちゃうんですけども、教員の捉えとしても、最初はどちらかというマイナスのイメージで、小学校には部活はないし、中学校の教員にしても小学校の指導をするということになれば、それなりの対応を研究する必要があります。そういったデメリットもあるのは確かだと思います。ただし、その点は現在は解消されつつあるという状況でした。現地について職員室の前を通ると、職員室は広く教員も多かったです。教員の数が違うというのが、子どもたちにとってどうだろうということで話を聞き、自分のこれまでの経験も振り返りながら考えましたが、教員の数が多いというのは、1人の子どもを一面的にではなくて、多面的に見ていける、特に10歳から15歳の多感な時期にある子どもたちをたくさん大人の目で見えていけるということは、よりいろいろな方面から子どもたちの可能性を引き出していけるという意味では良いと思いました。それから一つやはり特徴的なのは、施設分離型ではないので、一つの建物の中に6歳から12歳の子どもを見てきた教員と、13歳から15歳を見てきた教員がいるので、リセットがかからない、支援が途切れないように今の米子市も小・中学校はしっかり連携をとっていますけど、どうしても途切れてしまう部分が出てきます。そういった意味では一つの建物にそれぞれのステージを見てきた教員がいるということは、それだけ途切れのない支援が確実にできるのではないかと思います。仮にそういった方向に進んでいくということになれば、今実際米子市の小・中学校が行っている引継ぎ・支援がさらに充実したものに繋がっていくという期待を持ちました。それから、夢のある学校と言いますが、夢のある学校ってどういうことだろうなって考えたときに、一人ひとりの子どもたちがしっかりとした確実な支援を受けながら、自分の夢の実現に向かっていく学校、夢のある学校っていうのを、そういう捉えをするのであれば、多面的に子どもの可能性を引き出すであるとか、途切れのない支援を確実にやっていくということは、子どもの夢の実現に繋がっていくものではないかと感じました。ただ、いずれにしても、メリット・デメリットあると思いますのでそれ

らを踏まえて検討したいと思います。

副会長　　デメリットの解消として、どう工夫しておられるかというのをもし分かればお願いします。私は、小規模校も大規模校も経験しましたがけれども、人数が増えると教室内の学習だけではなくて、校地内のいろいろな体験学習であるとかボランティアの方との活動の場とか、体育館、グラウンド、休憩時間含めて子どもたちが自由に活動する場所や時間の制約があると子どもたちにストレスになります。そういう場の保障や調整について教育課程の中で工夫しておられることをお聞きしたいです。

課長　　小学校と中学校の子どもたちが一緒になって一つの校舎で教育課程を行っているので、その点について我々も気にしたところです。例えば、理科室も一つで大丈夫ですかとか、体育館も一つで大丈夫ですかとか、グラウンドは何とか区分けをすることができたとしても、そういったところのハード面はいかがでしょうかと伺うと、湖南学園の規模であれば問題なく教育課程を実施できているとの返答でした。体育館等の具体的な活用方法につきましては、今回はお話を伺っておりません。

副会長　　これから学校を作っていくときに、内容面と同時に、学習環境、子どもたちの遊び場や観察活動の場といったことも含めて考えていかないと、子どもたちがこれからいろいろ体験をして、いろいろ経験していくことが大事だと思います。

会長　　それでは休憩の後、引き続いて視察に対する質問、あるいはご意見であるとかそれを踏まえた美保中学校区の学校づくりについて、冒頭にもありました審議事項のこういった形の学校を作るのか、こういった教育の内容を展開していきたいということについて委員の皆様にご意見いただければと思います。

14時55分再開

会長　　後半ですけれども、事務局の視察報告について、もしまだ質問があれば改めて伺いして、そのあと現時点で委員の皆様が、美保地区の学校の在り方に対してどのようなお考えを持っておられるかをお聞きしたいと思っております。それを事務局の方でまとめていただきまして、次回でより具体的な議論ができればと考えておりますので、そこを見据えてご意見をお聞かせいただけるとありがたいと思います。それでは、先ほどの視察報告についてさらにご質問等ございましたらお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

委員　　義務教育学校の可能性というのをものすごく感じました。鳥取でも全国でもまだまだ少ないと思います。

私は和田で説明会をして、住民のみなさんにも納得していただくというか、勉強していただきたいと思っています。まちづくり協議会が主導しておられますけれども、

まず学校の統合というのに皆様相当興味を持っておられますし、賛成・反対あると思いますが、これをきっかけにフェーズが変わるような予感がしております。その時はぜひ事務局から住民の方に説明をお願いしたいと思います。

委員　もし4校が一緒になった場合、日々の生活の中で、放課後の子どもたちの過ごし方があると思いますが、この学校で、例えば放課後、学童のような、子どもたちが一緒に遊べる場所とか確保されているのか、もしくは放課後に友だちと遊ぶにしても、校区が広がるのでこの学園ではどのようにされているのか知りたいです。

事務局　放課後につきましては、米子市内でも行われているなかよし学級のような放課後の学童のようなものは鳥取市の方でもされていると聞いておりますが、放課後の遊び場については、今回お話は伺っておりません。

委員　学童とか形がしっかりしたものではなくても、放課後に子どもたちが自由に遊べるような、地域の遊び場とでもいうような、放課後に子どもたちが過ごす場所が学校にあるのでしょうか。

課長　グラウンドの広さや数等の施設面に関してですが、湖南学園のグラウンドは比較的広いグラウンドでした。加えて、全校児童生徒数が140名ということで、妥当であらうと思って見ました。ただ、仮に美保中学校区が義務教育学校になるとして、それがそのまま当てはまるかどうかは検討の必要があると考えています。例えば1年生と9年生が同じグラウンドで遊んで安全が保障できるのかという点で、中学生段階では部活動もあります。ちなみに、そういったところで柵等で区分けをされているという事例もあると聞いています。

委員　湖南学園に校区外から通っている子どもたちの通学方法は怎么样了か。

事務局　通学に関しましては、小規模校転入制度を活用される方は、登下校の安全については各自保護者の責任ということになっていて、保護者の送迎やバスによって通学されているそうです。加えて鳥取市ではバス通学に助成を出されているそうです。

委員　そのバスは一般の定期バスですか。

事務局　一般のバスに乗られます。湖南学園が山間部にある学校なので、バスの本数も多くなく、大体どのお子さんとも同じ便のバスに乗られるような話でした。

委員　校区外から通っている児童生徒の学年の内訳は怎么样了か。

課長　学年の内訳までは伺っておりませんでした。次回までにお調べして、ご報告したい

と思います。

委員 湖南学園の校舎とかいろいろ言われましたけど、例えば美保中学校区が新しくなった時に、小学生と中学生が同居する形になれば、トイレとかいろいろなものはそれにあわせて作られるということですか。同一のものにするのか、例えば中学生対応にするのか小学生対応にするのか、もしくは中学生対応も小学生対応も作るのかというのは現時点で何か考えておられますか。

課長 現段階では検討はできない状況にあります。仮にそういった結論となった場合は、当然湖南学園をはじめとして、先進地等の良さやデメリット等を詳細にお調べして、それを補完するようなものを作っていくとけないと考えております。

会長 その他いかがでしょうか。

(発言なし)

そうしましたら、今の湖南学園の視察について活発にご意見いただきましてありがとうございました。それを踏まえて美保中学校区の学校の在り方について、こういった形の学校にしてはどうか、あるいはこういった教育内容の学校にしてはどうか、形の面、中身の面どちらでも結構です。ぜひこういった形でのご提案等あればいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

委員 委員の方々から出た教科担任制とか、和田小学校の地域の方々との触れ合いなど良い面がいっぱいあるというご意見がありました。教科担任制は、実は小学校も何とかやろうと工夫して少しずつ導入している状況です。その中で外国語というのは、中学校の先生が専門性がありますので、月に1回来てもらって小学校で授業をしてもらうということをしています。以前、校長先生に、もう少し来る機会を増やしてほしいと頼んだことがあるんですけど、やはり今の状態が精いっぱいということで、今やっている良い実践というのが、学校づくりの中で拡大していったり充実していったりということを踏まえながら議論が進めば良いと思いました。

委員 湖南学園の視察の報告を聞かせていただいて、義務教育学校がすごく良いというふうに思っています。さっき言われたように、義務教育学校で中学校の専門の先生が小学生に教えることはすごく良いことだと思います。今の子どもたちってあまりものを作ることが得意ではない子がたくさんいて、今はどちらかという買ったものを与えられるとか、自分が作るとか何かをするというのが非常に少なくて、中学校の技術の先生が、英語の先生が、小学生を教えていただくというのは、子どもが一番吸収する時間にもものすごく吸収できると思います。また、いろいろな体験をさせることで自分が将来何がしたいとか、どういう職業につきたいとかというのがすごく広がるな

と思っています。私はどちらかというと、統合して義務教育学校という形にしてほしいです。

もう一つ通学の話が出ましたけど、中学生が子どもを見ることはできますし、小学生は一生懸命、横断歩道渡るときに手を挙げたり挨拶してくれたりするのですが、中学生は自転車の乗り方が悪いっていつも言われるんですけど、中学生が手本になるというか、すごく相乗効果があって、上の子たちが下の子を見るっていうことができるし、防災面もなにかあったときに中学生が小学生を見てあげるってことができるので、できたらそういう形で進めていただきたいなっていうのが私の思いです。

委員　　今回は義務教育学校の視察をしてもらいましたが、逆に複式学級の良いモデルを紹介してほしいなと思いました。

課長　　視察が実現するかというのは現時点ではお答えできませんが、仮にできない場合につきましても、委員が仰ったようなことを踏まえ、複式学級の取組につきましても、しっかり説明させていただく準備はしておきたいと思います。

委員　　事務局から義務教育学校の説明をいただきました。よく分かりました。子どもたちの可能性を見出す教育がなされているというふうに思いますが、私はまちづくりの観点からみればこれでもまだ足りない部分があるように感じております。なぜならばまちづくりは、人が集まらなければまちづくりになりませんし、学校も発展しません。以前もお話したように、このままだと20年30年先にはまた同じような傾向になります。合併をして同じような傾向になってはならないと思っています。ですからこの義務教育学校の多彩な教育をもって成果を上げ、結果を出して、地域の住民、米子市全体からの評価を上げていってほしいと思います。校区外の生徒がいるということを言われましたけど、米子市全体としては子どもがだんだん減っていく状態なので、弓浜地区でもどんどん減っていきます。そうすると、学校自身も大体同じようなことになるので、米子市全体の子どもたちの取り合いになっていくと思います。少なくとも特色ある、成果が出せる学校にしていって、一軒でも二軒でも多く弓浜地区に家を建ててもらえるように、保護者の期待に応えられるような特色ある学校を一貫して1年から9年までやっていくような学校を作っていただきたいと思います。ひいては、地域、まちづくりに寄与するものと考えていますのでそのような方向に向かっていただきたいと思います。

委員　　今回複式学級の可能性があって、他の形がないかということでこの話が出てきたと思いますが、複式学級にした方が学力はあがるのか、もちろんメリット・デメリットあると思いますが、義務教育学校の方が学力は上がるのか、まず学力の点はどうか。

課長　　知識や技能といった学力はとても大切で、そういった学力は少人数であればあるほ

ど個別指導が可能になり、身に付けることができると思います。一方、これから子どもたちが向かう社会をたくましく生き抜く力、具体的には、例えば、解決が難しい未知なる課題をどのように解決していくかといった力、より多様な意見を取り入れながら、より多様な他者と協力しながら一緒になって最適解を見つけていくといった力を醸成するという点でいきますと、やはりより多様な集団の中での教育が必要になり、そういった点である程度の集団が保障される義務教育学校は適していると校長先生のお話を伺ったところです。それぞれの良さがあると思っています。

委員 　　どこかの学校が年長も一緒にという学校がありましたけど、これはどういう形態でしょうか。

事務局 　福部未来学園という義務教育学校ですが、ここは施設一体型で年長だけ一緒に入っておりまして、他の義務教育学校は小学校から中学校の9年間の一貫で、福部未来学園は年長から中学校までの10年間で一貫しているということで伺っております。

委員 　　修業年数に入れているということになりますか。

課長 　　保育・教育の中身だけを一貫して行って、保幼段階と小学校段階の段差を少なくしようという取組を、福部未来学園では展開しておられるということです。米子市も、園と学校は離れていましてオープンスクールという取組でできるだけ小学校入学段階の子どもたちの段差を減らそうと行っているところですが、福部未来学園は施設が隣り合っていることで、そういったことがより円滑にできているということです。

委員 　　例えば美保中学校区の学校を統合した場合に、保育園も同じ敷地内にあれば、年長さんが多少なりとも小学校との交流ができるということですか。

課長 　　そのような形になれば、そういったことも実現可能かと思います。

事務局長 　美保中学校区ではありませんが、米子市におきましては、そういった幼保と小学校の連携を考えておりまして、啓成小学校を建て替えますけれども、同一敷地内に保育園を作ろうと計画しています。美保中学校区の学校づくりにおきましても、近隣に保育園・幼稚園を作るということは検討の一つになります。

委員 　　先ほどのデメリットの中に、5年生と6年生の制服の話がありましたが、制服有りなしというのは学校独自の方針で決められるということですよね。

課長 　　はい。そうなります。

会長 　　今、議論が義務教育学校中心に進んでいますが、皆様の中で義務教育学校以外の設

置形態、例えば小学校3校統合で中学校は現状存置、あるいは複式学級を取り入れて現存のまま等、義務教育学校以外の設置形態がいいのではないかとというようなご意見があればいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

委員 湖南学園の場合に、2割の方が校区外からが通学しておられるということがありますが、そもそもそれが定住に繋がっているかというところというわけではなくて、校区外から学校に通っているだけですよね。したがって、まちづくりをもう少し充実させて、調整区域を緩和するだとか、そういうことで家が建っていく可能性もあるだろうし、学校が義務教育学校になったからといって、じゃあ住む人が増えるかというところはどうだろうなと思いました。今回新しいデータで、令和8年度の複式学級がすぐになるというわけではなくて、確定ではないけどもう少し先になりそうだという話なので、すぐに結論を出すのではなくて、もう少し議論する余地があるのではないかと感じました。

委員 保護者の方が家を建てる時に、学校を見て家を建てる場所を選ぶ人は少ないと思います。例えば自分の仕事場から近いからとか、親のそばに家を建てたいからとか、大人の都合で建てていると思います。学校ありきで考えるのではなくて、まず魅力あるまちをつくっていたら自然に子どもが集まると思うので、校区審議会よりまちづくりの検討を先にすべきだと思います。

委員 私は義務教育学校に賛成です。もっと言えば、幼稚園や保育園を含められれば、より人数が多くなってコミュニティ的には良いかなと思います。

委員 さっきのまちづくりの方を先にやるべきじゃないかという話の中で、学校は何のためにあるのかなと思いました。学校は子どもが勉強したり育てたりする場所であって、まちに人を呼ぶためのツールじゃないと思います。まちづくりを先に進めるべきというのはおかしいというか、学校は子どもを育てる場所なので、学校の話はまちづくりと密接に関わっているとは思いますが、あくまで子どもにとって何が良いのかを話す方がべきなのかなと。まちに人を呼び込むっていうためのものじゃないと私は思っています。

委員 先ほどの委員の発言にすごく賛成です。まちづくりのことはまちづくり審議会が進めていただいて、ここは学校をどうするのか議論する会ですよね。米子市さんと教育委員会さんに一つお伺いしたいのは、この問題って結構前から言われてきていて、統計を見ていればわかることで、現在米子市さんと教育委員会さんからの立場から見て、教育を引っ張ってきたトップから見て、これはどれがよろしいと思うんですか。やっぱりトップで米子市を引っ張ってきていただいた、教育を引っ張ってきていただいた人たちの目線から見るとどうなんでしょう。それをちょっとお聞かせ願えますか。

教育長 この場でそれを申し上げる立場にないということを最初に言わせていただきたいと思います。先ほど事務局から説明しましたが、今まではまず地域の方々のご意見を伺って、そしてこの会の開催に至っております。そしてこの会でさまざまに議論されたものを教育委員会という場で話し合っただけでここで決定していかうという立場になるので、例えば私なりがどう思うということをここで申し上げるのは、この会そのものの存在意義を否定するものであります。私は教育委員会の中では当然、私の思いとか意見を言うつもりではおりますが、今ここで申し上げるとするのは、まだあたらない段階であろうと思っております。ですから参加させていただいて、皆様の意見をしっかり聞いているというのが、私が最終的な案に至る一つのステップになっているということでございます。

委員 これから協議しながら教育委員会として決めていかれるということでしょうか。

教育長 ここで話された内容をしっかりと受け止めて、そして教育委員会という場でしっかりと議論して、皆様の意見を十分に参考にさせていただきながら最終判断をくださうという方向でおります。ですからこの会が非常に重要と思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

会長 それだけ我々に課せられた責任は大きなものがあるということかなと思ひます。
本日は主に事務局から県内では先進事例の湖南学園の視察の様子をご報告いただきました。それをもとに質問等いただきながら議論いただいたところです。中には義務教育学校に大きな魅力を感じているとおっしゃっている委員の方もいらっしゃいました。ただ、本当に義務教育学校を作ればそれですべてうまくいくのかというところが多分そうではなくて、あくまで義務教育学校というのは一つの設置の形態でありますので、じゃあそこでどのような教育を行っていくのか、学校のいわば魂といいますか、教育の中身を充実させていくことが必要かなと思ひます。また、その視察についても、まだ引き続きこういったところはどうかというご質問をいただきましたので、次回の校区審議会ではそのあたりの新たな情報も、義務教育学校というのを一つの軸に皆様で一歩進んだ議論ができればと思ひます。そして繰り返しになりますが、どのような教育を行っていくのかの中身が大事になるかと思ひます。本日の発言の中でも学校の魅力づくりとどう教育内容を充実させるかということが大事だということもあつたと思ひます。そのあたりも含めて、こういった学校を作っていく、これからの変化の激しい社会を生きていく次の世代の子どもたちを育てていく、そういった視点から議論を深めていければいいかなと思ひます。

事務局 それではこれもちまして第2回米子市立学校校区審議会を終了いたします。

閉会 午後3時37分